

障害者支援施設 障害者福祉センター友愛寮

1 基本方針

思いやりと友愛の心を持ち、豊かで心のこもった利用者本位の質の高い福祉サービスを提供し、安全かつ安心して楽しく有意義に生活できるよう支援する。

地域との繋がりや共生を重視し介護・支援を必要とされる地域住民のために役立つ施設を目指す。

また、地域住民のニーズに応えられるよう、職員一人ひとりが専門職としての資質向上に努め、施設入所・通所・短期入所など各サービスの充実を図る。

2 利用者の状況（令和3年3月31日現在）

（1）入所者状況

（人）

利用人数		前年度末利用者数	令和2年度中の入退所状況								利用延人員	定員に対する年間平均稼働率	年度末利用者数		
区分	定員		入所人員	退所人員	退所理由別				死亡						
					地域移行		家庭復帰	施設移管		契約解除(入院等)					
生活介護	50	58	3	7	GH	アパート等			0		0	0	1	2	4
施設入所支援	50	49	3	6	0	0	0	0	1	1	4	16,794	92.0%	46	
元	生活介護	50	59	6	7	0	0	0	0	2	5	13,153	97.5%	58	
年度	施設入所支援	50	50	5	6	0	0	0	0	1	5	16,752	91.6%	49	

（2）障害支援区分

①生活介護

（人）

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	3	2	8	14	27
女性	0	0	0	2	4	9	12	27
計	0	0	0	5	6	17	26	54

②施設入所支援

（人）

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	2	2	8	10	22
女性	0	0	0	2	4	8	10	24
計	0	0	0	4	6	16	20	46

3 事業の実施状況

（1）安定的な施設運営の維持及び施設の環境整備に努める。

ア 長期入院や疾病等による死亡で稼働率は低下した。利用者の高齢化・重度化により早期発見、早期対応に努めるとともに医療機関との連携が必要になってきている。

・稼働率（目標）

生活介護96.5%（102%）、施設入所支援92.0%（99%）、短期入所31.3%（50%）

イ 感染症対策に備えた簡易陰圧装置（静養室）を整えたり、マスクや消毒液、ガウン等の感染症対策必要物品の準備や点検、その他の環境整備に努めた。

ウ 改築計画に係る検討については、現施設設備上の問題点及び設備改善等について、友愛寮、厚和寮職員の意見を取りまとめ、今後、改築計画に生かす予定としている。

（2）利用者の満足度の高いサービス提供に努める。

ア 各部署が協働し、日々の利用者、家族との関わりの中から必要なニーズ把握に努め、6か月に1回ケアカンファレンスにて利用者状況・課題等について話し合いや情報共有並びに統一理解を深めている。

月評にて個別支援計画をもとにモニタリング等状況をまとめ評価することで個別支援計画の充実を図ることができた。

また、個別支援計画見直し時期に個々のリスクカード見直しも継続しておりリスク管理にも繋げている。

イ 知識や技術向上を目的とした研修については、感染症対策のため中止や延期となり施設内の研修の充実に努めた。

感染症対策研修、虐待防止研修、外部講師によるメンタルヘルス研修、モチベーション研修の実施、ガウンテクニックなど感染症対策研修は、職員一人ひとりが専門職としての知識を深めることができた。

また、3人の新任職員に対し、トレーナー（指導職員）制により、年間を通して計画的に指導を行った。

今後も新任職員のスキルアップとリスク軽減に努め人材育成に取り組んでいく。

ウ 保護者・利用者満足度アンケートを8月に実施、集計、検証を行い要望や意見に対して改善に取り組み、その対応結果を施設内に掲示するとともに保護者へは送付した。

また、利用者へ満足していただけるサービスの提供に取り組むよう職員に周知した。

職員のサービス自己評価については、10月に実施、集計、検証を行い会議にて意見交換を行った。

自己の振り返りと同時にサービスの振り返りを行い業務改善やサービス向上に繋げることができた。接遇マナーについても研修を開催し全職員に周知した。

エ みんなの会（利用者自治会）、意見箱の活用により苦情や意見を汲み取り苦情解決委員会で検討し第三者委員の助言もいただき施設整備や支援等の改善に努め利用者、家族が安心して利用していただけるように施設全体で取り組むことができた。

また、虐待防止チェックシート実施や業務振り返りシートを活用し意識啓発に努めた。

オ 重度化、高齢化、疾病により咀嚼、嚥下機能が低下した利用者に対しては、刻み食やなめらか食等で工夫をこらし個々に応じた食事形態の提供や個々の機能に応じた食器類や自具を検討しながら対応している。

嗜好調査、朝食選択食の実施、2か月に1回、利用者参加の「ごはんの会」を開催し食事についての意見や要望を献立に繁栄させるとともに「鍋の日」や目の前で焼く「ステーキの日」を実施した。

毎月の行事食では「ご当地献立」「各国味わいの旅」「誕生日会食」も利用者の楽しみとなっている。

カ 個々のアセスメントを随時実施し、利用者の心身機能の合わせた個別、生活リハビリの提供に努め機能維持を図れるよう各部署と情報提供し介護方法の検討を行い実施した。

また、福祉用具の活用や個々の身体機能に応じたポジショニングやシーティングの重要性を理解しながら施設内での研修会を重ねている。

(3) 医療的ケアの充実を図る。

ア 日々のケアの中で他部署との連携を図り情報伝達を詳細に行い異変への早期発見、早期対応に繋がった。

急変時対応については、「事前意向確認書」の活用とともにマニュアルに沿った研修会を実施し、迅速な対応ができるような体制の整備ができた。各部署との連携をさらに密にして医療的ケアの必要な方への対応に努めていく。

イ 有資格者による安心、安全な医療的ケアを実施するため、年2回「認定特定行為従事者フォローアップ研修」を計画し手技の確認、評価を実施することで医療的ケアに必要な技術の維持に努めることができた。

有資格者が自信を持ち医療的ケアに従事できるよう支援していくとともに協働体制の確保と整備に努めていく。

(4) 地域生活の継続と推進を図る。

ア 年度当初、新型コロナウイルス感染症の影響により通所、短期入所の受入を自粛していたが、コロナ禍の中、マニュアルの整備や感染症予防に努めながら受け入れを再開とした。

通所、短期入所利用者のニーズの必要性は高く、重度化への対応に向けて受け入れ体制を考慮しながら進めていく。

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

実習受入先	実習期間(月)	実人員	延人員
鳥取県(新規採用職員)	7月	1人	2人
鳥取大学(介護等体験)	8-9月	6人	30人
鳥取社会福祉専門学校	11-12月	2人	10人
計		9人	42人

(2) ボランティアの受入実績

新型コロナウイルス感染症のため受入なし

5 附帯事業

(1) 短期入所事業 定員 併設4名及び空床型

(2) 日中一時支援事業 定員 上記同様

(3) 利用実績 (人)

事業区分	今年度利用者数		前年度実績利用者数	
	実人員	延人員	実人員	延人員
短期入所事業(宿泊有)	12	458	13	569
日中一時支援事業	0	0	1	3